

家庭菜園で見られる蟲たち

〔カブラハバチ〕

秋も深まり、アブラナ科の作物が育ってくると、葉をかじる紫黒色の1~1.5cmくらいのイモムシが目立ってきます。近づくと丸くなって地上に落ちてしまい、なかなか捕まえて退治することができません。



彼らはガやチョウの幼虫のようにみえますが、実はカブラハバチというハチの仲間の幼虫です。成虫は頭部と翅が黒く、胸と腹が橙黄色をしておりですん胴で、こちらも腰のくびれたハチのイメージはありません。ハバチ類はあまり目立ちませんが、ハバチ科の仲間だけでもチョウの2倍の約500種以上が日本に生息しています。

土の中で繭を造って越冬した蛹は4月頃から羽化し、4~5月、6~7月、9~11月と年間3回ほど幼虫が発生し、特に秋期の発生が多いようです。緑の葉の上で黒い色をしているため非常に目立ちますが、あまり天敵類はいないため、油断すると大発生して大きな被害を受けることもよくあります。

ハチの仲間は大きく二つに分けられ、スズメバチやミツバチ、アリなどのように腰の部分がくびれている細腰亜目と、ハバチ類のように腰がくびれていない広腰亜目の2つに分けられます。社会性生活をするなど高度に進化した細腰亜目に対し、広腰亜目のハチは原

始的と考えられており、現在も種分化が進行している生物として多くの研究が進められています。

女王を中心に一糸乱れぬ行動を見せるミツバチやスズメバチなどの行動を見るのも楽しいですが、時にはのんびりと気ままに葉をかじるハバチの幼虫を見ながら、遠い太古の時代に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

